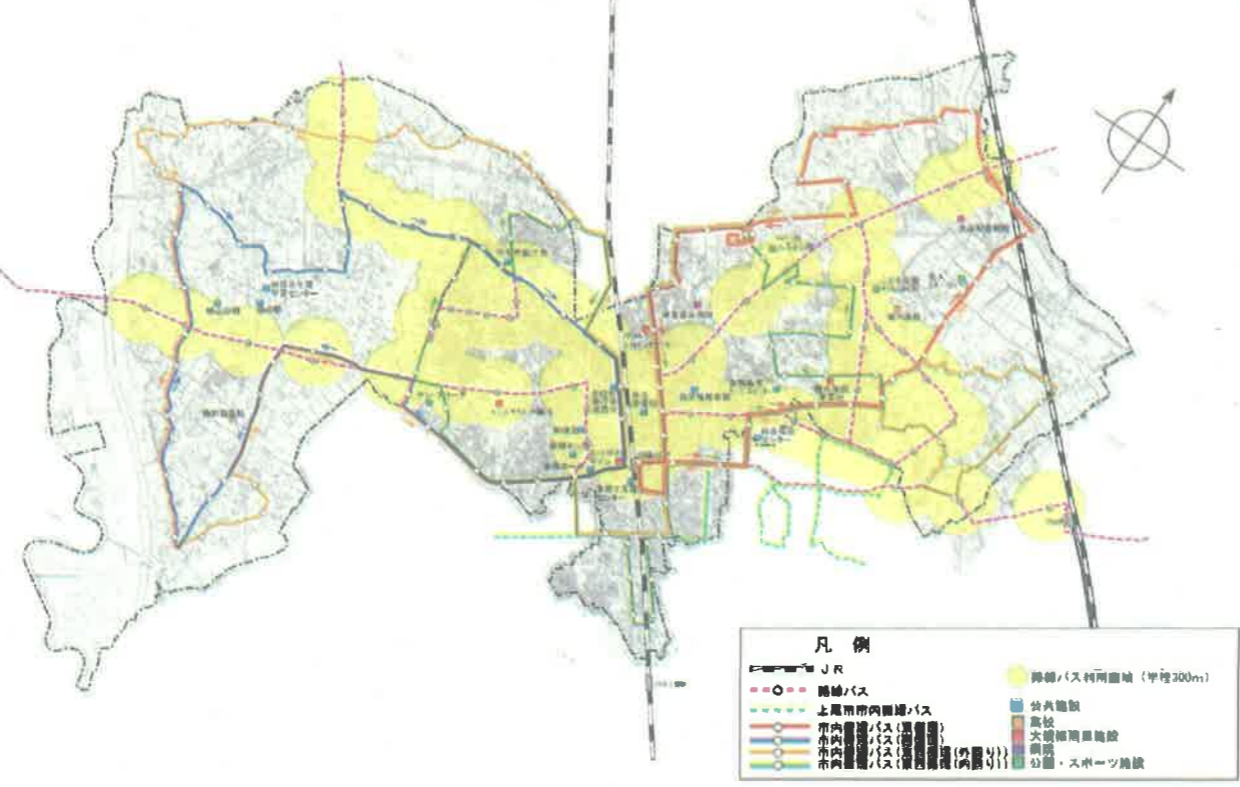
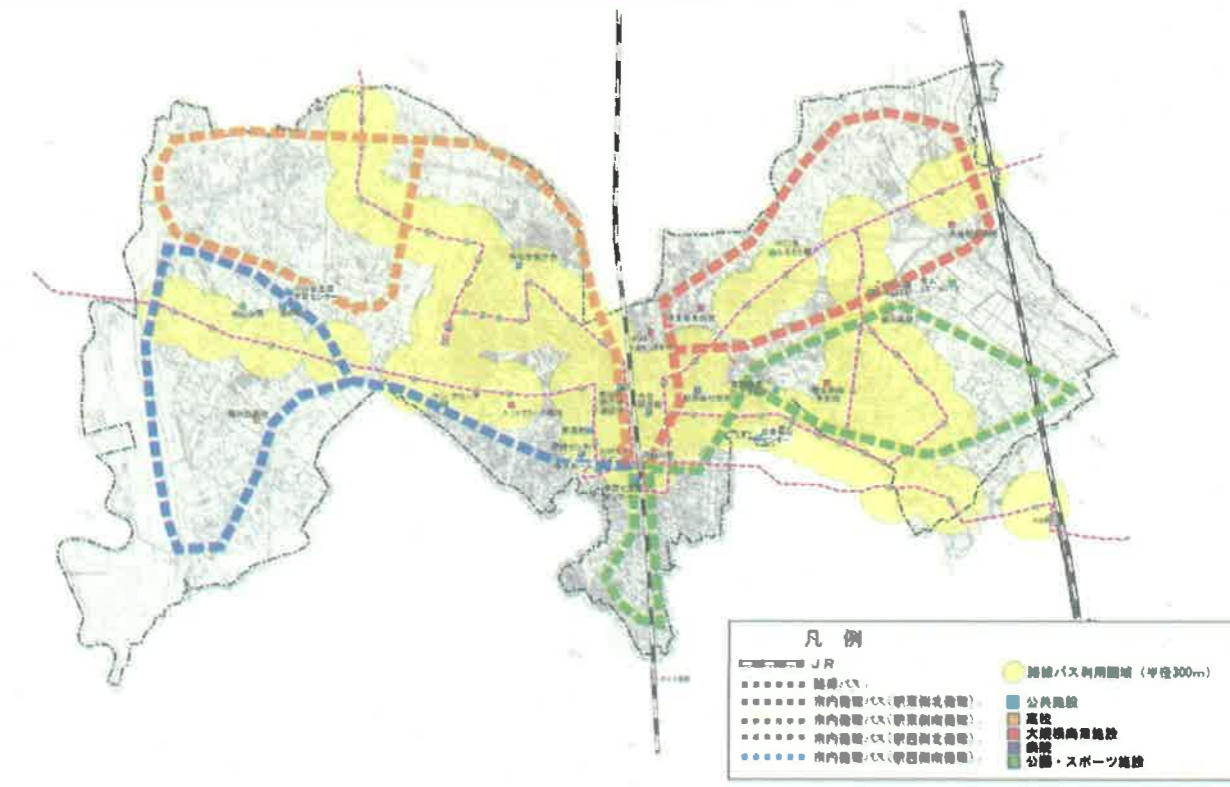


ルート見直しイメージ案の比較

<p>コンセプト</p>	<p>イメージ案1 東側、西側それぞれで、一部路線の運行方向を逆にするイメージ (例として、東西循環外回りを逆回りにした案)</p>	<p>イメージ案2 市街地は同一経路を往復し、郊外は循環するイメージ (例として、駅東西にそれぞれ2ルート設定するイメージ案)</p>
<p>ルート図</p>		
<p>メリット</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○現行ルートを基本とし、ルートに大きな変更がないことから、現利用者への影響が少ない。 ○路線が重複しているところは相互運行が実現する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○駅東側、西側それぞれで駅を発着とし、郊外まで往復するコンパクトなルートとなることで、全体的に各ルートが短縮され、桶川駅への利便性が高まる。 ○市街地は相互運行となる。 ○各ルートともコンパクトなルートとなることから、各ルートの便数も同程度とすることが可能となる。(特に郊外を回るところの便数を増やせる可能性がある)
<p>デメリット</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ルートの具体化に際し、公共施設等へのアクセスを確保(寄り道)するルートの調整をした場合には、ルート延長が拡大し、所要時間も現状よりも長くなる可能性が高い。 ○運行方向を逆にすることで、駅への到達時間などが遅くなるなど、サービス低下が生じるところがある。 ○路線が重複しているところは、逆方向を設けた分ももとの方向の本数が少なくなる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ルートに大きな変更があることから、バス停の廃止も想定され、現利用者への影響が懸念される。 ○東口から西口へ(逆も同様)へ向かう場合には、駅での乗り継ぎが必要となり、サービスが低下する。
<p>課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○一部路線の運行方向を逆にすることによる、運行サービスの低下(デメリット)を補うためには、運行経費が現状より多くかかってしまう。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ルート等の大幅な見直しによる、運行サービスの低下(デメリット)を補うためには、運行経費が現状より多くかかってしまう。 ○ルートが大幅に変わることから、路線バス事業者との十分な調整が必要となる